

「今年度の取組目標と具体的な方策」の達成度【A：十分に達成し目標を超えた成果あり B：概ね達成 C：達成まであと一歩 D：未達成】		達成度				数値目標の達成状況 ○達成△いま一歩×未達成
		A	B	C	D	
<b>I 学習指導</b>				●		
探究的・協働的な活動による学び合いの推進				●		
① 生徒による授業評価・校内研修・相互授業参観の実施により授業改善を行う。			●			
② 図書館や一人1台端末等を活用した探究的な学習及び協働的な学習により、生徒同士の学び合いを推進する。				●		
③ 日本語指導推進校として「校内寺子屋」対象となる生徒の基礎学力の獲得と定着を図るとともに、自習室支援等を充実させる。		●				
④ 学力向上研究校として「校内寺子屋」対象となる生徒の基礎学力の獲得と定着を図るとともに、自習室支援等を充実させる。				●		
⑤ スキルアップ推進校事業「グローバルスキル講座」及びJETを活用した実用英語技能検定受験支援を行う。			●			
⑥ スキルアップ推進校事業「デジタルスキル講座」を活用してICTスキルを習得させ、自立的な学びへの活用を促していく。				●		
学校2020レガシーへの取組			●			
① 学校設定教科「グローバルスタディーズ」や東京体験スクールなどの国際交流により世界的課題への関心を高める。			●			
② 学校設定科目「日本の伝統・文化」により日本の伝統・文化への理解を深め、国際人としての素地を養う。				●		
③ 地域と連携し、ボランティアマインドの醸成、人間の多様性と社会の包摂性の理解、豊かな国際感覚を育む活動を行う。					●	
<b>II 生活指導</b>			●			
規範意識の醸成と主体性の育成			●			
① 都立高校生活指導指針及び生徒指導要綱に基づく生活指導を行う。			●			
② 規律ある生活習慣の確立と規範意識向上を目指し、遅刻指導、身だしなみ指導等を行う。		●				
③ 生徒会、委員会、部活動等、生徒が主体となる活動を促進し、生徒の主体性・協調性・実行力を養う。				●		
④ 関係機関と連携し、薬物乱用防止教室、セーフティ教室及び自転車通学指導（ヘルメット着用・保険加入・法規順守）を行う。		●				
⑤ 防災サポートチームを活用した防災教育を行う。			●			
⑥ 生徒・保護者とともに校則の点検と見直しを行う。				●		
人権教育の推進				●		
① いじめや生命に関わる事故未然防止ため、SNSルールや相談窓口の周知徹底、SC・YSW・専門医派遣事業等を活用する。				●		
② 人権講話及び人権教育プログラムを活用した校内研修により校内の人権意識の向上を図る。			●			
<b>III 進路指導</b>				●		
外部機関と連携したキャリア教育				●		
① キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲによるキャリア教育実践で進路意識の向上を図る。			●			
② 多言語による情報提供、ハローワークと連携した相談体制等、多様な生徒に寄り添った取組を行う。				●		
③ スキルアップ推進校事業とJETを活用した英検指導、模擬試験や資格検定試験を活用した指導の充実を行う。			●			
④ 特別支援教育心理士、スクールカウンセラー及びユースソーシャルワーカーの連携により、多様な生徒の進路実現を図る。				●		
⑤ スキルアップ推進校事業を活用したインターンシップによりビジネスコミュニケーションスキルの向上と職業観の育成を図る。「働くチャレンジプログラム」の活用。				●		
⑥ 入国管理局及びNPO法人等外部支援団体と連携し、在京外国人生徒への進路支援を行う。				●		
<b>IV 特別活動・部活動・健康づくり</b>			●			
学校行事の充実と部活動の振興			●			
① 学習の成果発表として、体育祭、ロードレース大会、英語暗唱大会、百人一首大会、日本の伝統・文化発表会等を実施する。		●				
② 学校行事や部活動等の特別活動の充実により、主体的な実践力と協働する力を養う。				●		
③ 「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく指導を強化するとともに、各部活動において事故防止対策を徹底する。		●				
④ 学校2020レガシーの一環としてボランティア活動等、地域と連携した活動を行う。さらに「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」を活用した取組を行う。			●			
健康づくり			●			
① 学校保健委員会、安全衛生委員会を確実に開催し、産業医からの必要な助言・指導を受ける。		●				
② 日本語を母語としない生徒に配慮した対応と情報発信を行う。				●		
③ 熱中症予防、感染症対策、アレルギー対応等について校内研修を実施し、安心安全な教育活動を推進する。		●				
④ 産婦人科医等による保健講話を実施し、からだに関する正しい知識を身に付けさせる。				●		
⑤ 学校設定科目「グローバルスタディーズ」により、SDGS「すべての人に健康と福祉を」についての学びと体験を行う。				●		
<b>V 募集・広報活動</b>			●			
「入りたい学校」をめざした魅力発信			●			
① 平易な日本語やルビ対応の他、多言語による情報発信を行う。		●				
② ホームページの他、X（旧Twitter）等、即時性のある情報発信ツールを活用する。				●		
③ ユニバーサルデザインの視点からホームページ・学校だより・学校案内パンフレットの改善を図る。				●		
④ 学校見学会・学校説明会・個別相談会の他、在京外国人生徒向けの相談会（説明会）の実施。今後、学校HPでの説明会等の録画のアーカイブ配信も検討。			●			
⑤ 令和7年度都立高校EXPOでの情報発信		●				
⑥ 出身中学校別在籍生徒数及び中学校のニーズ（よりよい時期、必要な情報等）を把握しスケジュールの見直し等改善を図る。				●		
⑦ 都立高校魅力発信事業（PR動画やフォトギャラリーなど）を活用した広報活動を行う。			●			
<b>VI 教育課程</b>				●		
日本語を母語としない生徒への支援				●		
① 日本語指導推進校事業による対象生徒支援の充実のためにコーディネーターを中心とした組織体制の充実を検討する。		●				
② オンラインアセスメントテスト（J-CAT）の結果を踏まえ、習熟度別に放課後日本語指導を行う。			●			
③ 個別の指導計画と面談等により進路実現への支援を行う。				●		
④ 今年度から導入した複数担任制を検証し、複数担任制やチーム担任制などの検討に着手する。				●		
⑤ 学力向上研究校「校内寺子屋」の取組を推進し、基礎学力の向上と定着に努める。				●		
⑥ 今年度ダイバーシティ推進校に指定された4校の取組に学び、特色ある科目の設置・体験を重視した教育活動・特別の教育課程の検討に着手する。		●				
個別の支援の推進				●		
① 多方面の支援充実のために、新たな教育資源の確保を図る。			●			
② 自立支援チーム、SCやYSW、専門医、特別支援教育心理士等を活用した教育相談体制により、多様な生徒への指導を充実させ、中途退学を防止する。				●		
③ 通級による指導を必要とする生徒への校内体制を整える。				●		
④ 拡大する生徒の多様性に対応した指導・評価の在り方の検討				●		
⑤ 都方針「新たな教育のスタイル」の具体化の検討			●			
⑥ 制度改正を受けた不登校生徒の「学び保障」の具体化の検討				●		
<b>VII 学校経営・組織体制</b>			●			
組織力の向上			●			
① 企画調整会議を柱とした学校運営と組織的OJTにより人材育成を行い、課題解決に向けた校内分掌組織の再編を検討		●				
② 職員室と経営企画室との連携、事務円滑化、学校経営目標に基づく予算編成と執行等による経営企画室の経営参画を図り、全教職員の協力体制を構築する。		●				
③ 地域青少年対策地区委員会、警察署、消防署他、関係諸機関等、地域との連携を強化する。			●			
④ 「メンター制度」を活用した新規採用教員の支援と育成			●			
服務事故防止			●			
① 保有個人情報の安全管理に関する基準等を基に事故未然防止に向けた取組を全職員で行う。				●		
② わいせつ・体罰等について生徒・保護者への相談窓口の周知と職員への校内研修及び面談等により、未然防止に取り組む。			●			
③ 入学者選抜業務において、過去の事例やヒヤリハットを基に、校内体制の点検を行い適正に実施する。			●			
働き方改革・執務環境改善			●			
① 産業医との連携により、安心して働ける環境づくり、メンタルヘルス対策及びライフ・ワーク・バランスを推進する。			●			
② テレワークの推進により長期休業期間中の業務の効率化と育児・介護との両立を支援する。			●			
③ 複数担任制の導入や校内分掌組織の改編検討に着手する。				●		
④ 校内環境整備や校舎老朽化への対応等、学習環境及び執務環境の改善を図る。			●			

○「新たな教育のスタイル」WGを立ち上げ日本語指導の特別の教育課程、「多様な学びのスタイル」、自立した学習者を育てる学習指導の在り方等について検討。  
△教員相互授業参観 年5回以上/人  
○授業実践校内研修 年20回以上  
△各種検定受験指導 年20回  
△英検・漢検(準2級以上)及び日本語能力試験(N3等検定)合格 20人(年30人以上)  
△生徒授業満足度 92.5%(90%以上)  
△生徒による授業評価等を踏まえた授業改善の具体を年度末に学校全体で共有し、公表する。

△遅刻者数 全HR平均3.4人/日(3人以下/日)  
△部活動の加入率43%(50%以上)  
○問題行動抑止 特別指導件数20件(年20件以下)  
○校内美化キャンペーン実施 年3回  
○自転車通学生徒のヘルメット着用率・保険加入率100%自転車通学登録時に確認済み  
○地域と連携した防災活動 年1回以上  
○体罰事故防止研修の実施 年3回以上

○「探究・キャリア教育」WGを立ち上げ、総合的な探究の時間の充実等について検討。先進校視察も行き、その成果も共有した。  
△進路決定率 97.4%(90%)  
○三者面談の全員実施  
○自習室活用 202名(200名以上)  
○大学合格者 40名(30名以上)  
○職場体験・企業見学等参加者 86%(80%以上)  
△働くチャレンジプログラム活用 1名

○「魅力ある教育活動」WGで学校行事の在り方を検討。修学旅行先の固定化等について具体化も進む。  
○日本の伝統・文化発表会 年1回  
△生徒のボランティアや地域行事への参加年5回以上  
○2020学校レガシー講演会 年1回  
○コンディションレポートを活用した健康観察生徒の活用80%以上  
△定期健康診断受診99%(100%)  
○熱中症やアレルギー等による重篤な健康被害の発生ゼロ

○ホームページ更新 222回(年150回以上)  
○学校見学会2回・学校説明会3回(年10回以上) 1月に個別相談会を追加実施  
○都立高校EXPOでのブース来場者数56組  
△在校生による母校中学校訪問(練馬区立中全校)  
△学校説明会来場者 678人(年800人以上)

○「学校DEI」(WG)を立ち上げ、生徒の多様性に対応する教育活動を検討。その成果は次年度の共生推進部に引き継がれる。  
○日本語指導に関する授業研究等 年5回以上  
○オンラインアセスメントテストによる日本語能力の把握 J-CAT2回実施(年2回以上)  
○授業、校内寺子屋、日本語指導等の指導をサポートする外部人材の充実  
○自立支援チーム(YSW)による相談件数194件(年150回以上)  
○スクールカウンセラーによる相談件数71件  
△生徒の中途退学を11人(年30人以下)  
○都立版エリアネットワークを活用した特別支援学校等との連携4回(年5回)

○地域連携活動 年3回以上  
○一般需用費のセンター執行率向上61.5%(60%以上)  
×学校事故ゼロ、服務事故ゼロ  
○学校満足度 生徒・保護者 80%以上  
○校舎老朽化・危険箇所速やかな対応  
○服務事故防止研修の実施 年3回以上  
△メンタルヘルスケアに関する取組 年6回以上 産業医による面談  
○教職員アウトリーチ型相談事業 全教員が1回面談を実施  
×勤務時間外の在任時間「月45時間超」教員 延べ132人(60人)  
×各分掌・各学年から2つ以上の業務見直し提案